

視力・屈折検査の歴史年表(野矢正)

列1 年代	列2 事項	列3 人物、団体	列4 場所	列5 文献
古代エジプト	北斗七星おおぐま座のミザールを視力検査に使う			新臨眼
-2000頃	ガラス発見	フェニキア人	メソポタミヤ地方	第1巻
-700	世界最古のレンズ		古代ニネバ(イラク北方)	第1巻
-384~-322	近視に老視が対立する図	アリストテレス		視科学21-1
13世紀	眼鏡レンズ発明		ベネチア(北イタリア)	第1巻
15世紀	老眼鏡渡来、アイタイと呼ばれる			第1巻
17世紀	近視矯正に凹レンズが使われる			第1巻
1619	Scheiner実験	Christoph Scheiner		視科学21-1
1623	遠視の存在に気付く	ダザ・ドウ・バルデ(眼鏡についての著作あり)	スペイン	視科学21-1
1696	遠視は若い人にも先天的にもありえるとし	ハンバーガー(数学者)		視科学21-1
1704	遠視と老視は同じ	Isaac Newton		視科学21-1
1705	視細胞の大きさから最小視覚1分と推定	R.Hooke		新臨眼
1755	遠老視の名称を提案	ケストナー	ドイツ	視科学21-1
1801	乱視発見(2焦線間を最小錯乱円と名付け)	Thomas Young		視科学21-1
1807	遠視と老視は同じ	Thomas Young		視科学21-1
1815	文化12 『眼科新書』発刊	杉田立卿(玄白の子)	プレンキの眼科書を翻訳	第1巻
1825	乱視検査用の放射線図形	Purkinje		第6巻
1839	斜視手術	Diffenbach		ORT協会誌VOL10
1843	60対の凹凸検眼レンズセットを使用	Fronmüier		
1849	クロスシリンダー	Gabriel Stokes		DUKE ELDER
1851	検眼鏡を発明	ヘルムホルツ	ベルリン大学	第1巻・視科学21-1
1855	弛緩学説	Helmholtz		
1856	「Physiologische Optik」出版	Helmholtz		視科学21-1
1858	眼の短いことが遠視の原因	ドンデルス		第7巻
1859	検影法	Bouman		全書
1862	文久2 屈折論を教える	ボードウィン	精得館・大阪	第1巻
1862	Snellen文字	Snellen		新臨眼
1862	分数視力	Snellen		新臨眼
1864	眼の調節と屈折異常	Donders	イギリス	第7巻
1866	乱視を正乱視と不正乱視に分類	Donders		

年代	事項	人物、団体	場所	文献
1867	学校近視	Cohn,H.		全書
1870	日本語の試視力表作成	伊東元伯	オランダユトレヒト大学	眼科学の歴史
1871 明治4	眼科学、特に屈折光学を論じる	シュルツェ	大学東校	第1巻
1872	ジオプトリー	Felix Monoyer		DUKE ELDER
1875	小数視力の発表	Monoyer		新臨眼
1877 明治10	朝倉式西欧研磨法(凹凸、乱視レンズ)	朝倉松五郎		第1巻
1877	レフラクメータの始祖	Schmidt-Rimpler		全書
1879	形体覚という概念を基礎づけ	Hering		新臨眼
1881	Ophthalmometer	Javal et Schiötz		全書
1881 明治14	眼鏡新号「ジオプトリー」の説			
1883 明治16	遠視、乱視の検査を開始	梅錦之丞	東大眼科主任(ドイツより帰り)	第1巻
1883	夜間近視	Lord Regleigh		全書2.2
1884 明治17	日本で初めて乱視の処方箋	梅錦之丞	東大眼科主任(ドイツより帰り)	第1巻
1884	弱視学級開設(おそらく世界初)	Ernest Maddox		
1886 明治19	乱視用眼鏡製造	高林銀太郎		第1巻
1886	最初のオプトメトリストの呼称	ランドルト	アメリカ	眼科学の歴史
1887	クロスシリンダー普及	Edward Jackson		眼科学の歴史
1888	Landolt環	Landolt Edmond		新臨眼
1889 明治22	試視力表に乱視表をつける	青木純造		第6巻
1889	CLを自分の眼で実際に矯正	August Muller	ドイツKiel大学	新臨眼3
1890	Sturm's conoid	Jacques Charles François Sturm		全書
1890	Fukala 手術法	Fukala.Vinzenz		全書
1890	糖尿病性近視	Hirschberg.J		全書2.2
1891 明治24	「視力試験眼鏡囊について」(東京医事新誌)	平野千代吉		
1892	新生児の遠視	Herrnheiser.J		全書2.2
1892	Percival の基準	Archibald Stanley Percival		
1892	最初のオプトメトリスト養成学校		アメリカ	眼科学の歴史
1893 明治26	近距離視力表	大西克知		
1895	緊張学説	Tscherning		
1909	囊内調節	Gullstrand,A		
1909	視力表の視標に標準視標	第11回国際眼科学会		新臨眼
1912	顔面を下に向けた幼猿で実験近視	Levinsohn		新臨眼3

年代	事項	人物、団体	場所	文献
1913 大正2	日本でクロスシリンドー(新案乱視計)	河本重次郎		第6巻
1915 大正4	自家新案乱視呈表	紛沢正造		第6巻
1916 大正5	近点測定器	石原忍、稲葉六郎		
1919	Gullstrand,A の要式眼	Gullstrand,A		全書
1920	世界で初めて視能矯正の診療所を開設	Ernest Maddoxの 娘,Mary C Maddox		
1922	レフラクトメータ	Thorner		全書
1923 大正12	第1回眼鏡講習会(検眼の理論と実習)		お茶の水井上眼科病院	第1巻
1923 大正12	日本人最初のオプトメトリスト	小川守三		
1924	アメリカ全州でオプトメトリストのライセンス			眼科学の歴史
1924	回転乱視計	Raubitschek		全書
1925	Tabo-system			全書
1926 大正15	色盲検査表 第1版出版	石原忍		眼科学の歴史
1926 大正15	デスモンド講習会	D.Desmonnd(A.O.C)	大阪	
1926 大正15	第2回眼鏡講習会	石原忍	東京本郷	第1巻
	この講習会直後「眼鏡商の眼鏡検定行為は、医師法違反行為である」との建議書が東京医師会から出され、警視庁も同意。			
1927 昭和2	警視総監が内務省衛生局長へ照会、暗室の設置等は医業行為、眼鏡選定を簡単に援助するにとどめる事と回答			眼鏡士読本
1927	赤緑視標	Crifford Brown 社		全書
1928	Sheard の基準	Charles Sheard		
1931	他覚的視力	Ohm		新臨眼
1935 昭和10	新万国式	日本眼科学会総会		眼鏡士読本
1940	動体視力	Luckiesh and Moss		新臨眼
1946	Turville Infinity Balance (TIB) test	Turville		基礎両眼視
1948	プリズム反射法(Krimsky 法)	Krimsky,E		斜視および弱視
1949	眼内レンズの臨床に成功	Harold Ridley		新臨眼3
1950	Hofstetter の公式	Hofstetter		
1951 昭和26	国内でハードコンタクト登場			
1954 昭和29	眼鏡店の検眼行為について、検眼機器等を用いて度数の測定をするのは許されない(疑義回答)			
1955	視効率	米国医学会		新臨眼
1955 昭和30	眼鏡士試験開始	大阪眼衛生協会		
1956 昭和31	大島氏屈折検定用赤緑視標	大島勇一		
1960	ソフトコンタクトレンズ	Otto Wichterle	チェコ	新臨眼3
1961	ポラテスト	Hans-Joachim Haase		基礎両眼視

年代	事項	人物、団体	場所	文献
1961 昭和36	新薬事法の施行(眼鏡販売店届け出制度)	厚生省		
1963	ハンプリス法	Humphriss		基礎両眼視
1964	オフサルメロン開発(自動屈折検査機第1号)	Aran Safir		新臨眼3
1964 昭和39	視力検査基準	視力研究班		新臨眼
1965 昭和40	自動車運転手としての適性検査の為に実施する視力検査は警察署職員が行っても医師法に違反しない(浦和地裁)			行政事件判例集
1965	干渉縞視力	Campbell and Green		新臨眼
1966	ベクトグラフ	Grolman		基礎両眼視
1967	機械近視	Schober.Herbert		DUKE ELDER
1968 昭和43	眼鏡学校開校		東京、大阪	
1969 昭和44	両眼開放視力検査装置	林博文		新臨眼
1971 昭和46	視能訓練士法	厚生省		
1977	放射状角膜前面切開術(RK)	Fyodorov		新臨眼3
1977	幼若猿の瞼瞼縫合で実験近視	Wiesel & Raviola		新臨眼3
1978 昭和53	ハーゼ来日	Hans-Joachim Haase		
1979 昭和54	ニコンオートレフラクトメータ(国産第1号)	日本光学		新臨眼3
1979 昭和54	OMA第1回試験			
1979	ETDRS	National Eye Institute (NEI)		
1985 昭和60	IOL製造・輸入販売認可	厚生省		新臨眼3
1989	オルソケラトロジー開発	Woldyga		
1992 平成4	IOL保険適応	厚生省		
2002 平成14	薬事法改正で眼鏡販売業の届け出廃止	厚労省		眼鏡18.10
2006 平成18	小児眼鏡保険適応	厚労省		
2009 平成21	オルソケラトロジー認可	厚労省		
2010 平成22	ICL承認	厚労省		
2011 平成23	「眼鏡ハンドブック」編纂	日本眼鏡学会		
2015 平成27	SVS(フォトスクリーナー)発売			
2018 令和元	SVS運用マニュアル(小児科医向け)	日本斜視弱視学会・小児眼科学会		
2021 令和3	眼鏡作製技能士公布	厚労省		
注:年代は文献により異なる場合も多く、この資料をもって他への転用は不可とする(野矢)				